

# バレーボールの楽しさを伝授



中大選手16人が千葉の中学生280人と交流会

## Dream of Sports!

トップアスリート  
in Nagareyama

流山白門会など主催





中学生を指導する  
中大バレーボール部の選手(左)

中央大学バレーボール部と、千葉県流山市の中学校バレーボール部の生徒との交流会が1月18日、流山市民総合体育館(キッコーマンアリーナ)で開かれた。国内トップクラスの技術力を持つ大学生と一緒にボールを追うことで、中学生のレベルアップを図り、競技の楽しさに改めて気づいてもらうのが狙いだ。卒業生でつくる中大学員会、流山白門会(高橋洋会長)などが主催し、バレーボール部の協力で実現した。

## 「うおー」歓声とため息 中大選手の 強烈なスパイク

「Dream of Sports! トップアスリート in Nagareyama」と銘打った交流会は、バレーボール部の豊田昇平監督と土岐大陽<sup>ひかり</sup>主将(経済4)ら選手16人と、流山市内9中学校の生徒約280人が参加した。開会に先

立って、豊田監督が「バレーが好きなのか? バレーが楽しい人?」と問いかけると、全員が笑顔で挙手。監督の「きょうは授業ではありません。限られた時間の中でぜひ楽しんでほしい」のあいさつでスタートした。

中学生は、ストレッチ運動、肩慣らしのキャッチボール、オーバーパス、アンダーパス、片手でのレシーブなど大学生のウォーミングアップを見習いな

がら体を温めた後、技術指導の時間では基本的なボールの扱い方、レシーブやトスの仕方などを学び、選手とともにボールを追いかけた。

選手による模範実技では、レベルの高いトス技術などを食い入るように見つめ、ひときわ高い打点の、強くて速い中大選手のスパイクがコートに突き刺さると、「うおー」という歓声のため息が一斉に上がっていた。



休憩時間の「もぐもぐタイム」では、鋭い質問も飛び出して笑いに包まれた



大学生の指導を受け、中学生たちは楽しそうに練習に汗を流していた

## 「彼女はいるんですか？」 もぐもぐタイムで 打ち解け

実技指導以外にも、みかんとゼリーを食べながら、選手と交流する「もぐもぐタイム」が設けられた。バレーを始めた理由や毎日の練習時間のほか、どうしたら身長が伸びるかの相談に「中学生の頃はむちゃくちゃ寝ていました」という回答や、将来の夢は「幸せな家庭を築くことです」といったやり取りでは笑いも起きていた。「彼女はいるんですか」という質問にも、選手たちは正直に答えていた。

土岐主将は同じ千葉県出身。「こういう機会を設けていただけるのは大変ありがたいです。バレーボールを楽しいと感じることがうまくなる近道です」と語り、中学生と一緒に汗を流した。南流山中2年(現3年)の女子生徒は、「ストレッチはすごく入念で、今後の準備運動に生かしたい。プレーについてもその場その場で『こうしたほうがいい』と指摘されるので、すぐに見直せました」と感謝していた。



### □ 中央大学バレーボール部

創部70年以上の伝統を誇り、全日本インカレ優勝15回、関東1部リーグ優勝31回の実績を持つ学生バレーボール界の名門。昨年11、12月の全日本インカレでは3位だった。Vリーグをはじめ、日本代表、五輪代表にも数多くの選手を輩出している。

### ☆ 中学生との交流会に参加した 中大バレーボール部選手 (学年は4月からの新学年)

平井海成(総合政策4)	伊藤洸貴(経済3)
都築仁(法4)	山岸隼(法3)
梅本鈴太郎(法4)	柴健太郎(商3)
中野竜(総合政策4)	鐘ヶ江春樹(総合政策2)
土岐太陽(経済4)	黒木亮雅(経済2)
濱田崇人(文4)	菊池光深(文2)
佐々木潤(総合政策3)	佐藤篤裕(法2)
鎌田憲伸(法3)	内山隆司(商2)